

## 令和5年度 第1回史跡小島陣屋跡整備委員会 会議録

- 1 開催日時 令和6年1月23日（火）14時15分～15時00分
- 2 開催場所 小島町自治会館
- 3 出席者 <出席委員>坂野委員、前田委員、松永委員、渡邊委員  
<欠席委員>高瀬委員、中井委員、三浦委員  
<事務局> 岩田文化財課長、小泉埋蔵文化財係長、武内主任主事
- 4 傍聴者 なし
- 5 会議内容

### (1) 開会

委員過半数以上の出席により会議成立。

### (2) 文化財課長より挨拶

### (3) 議事

#### 【資料2】整備スケジュールの変更について

(事務局)

令和4年の台風15号によって史跡東側急傾斜地の土砂崩れが発生し、馬場跡の住宅3軒に被害が及んだ。この事態を受け、整備事業の大幅なスケジュール変更を行った。

まず、御殿書院移築復原工事や史跡整備工事完了後に予定していた急傾斜地対策工事を、令和4年度から優先的に着手する。

すでに令和4年度に地質調査が完了、予備設計が令和5年の秋に完了した。予備設計では幾つかの工法案について検討し、施工方法を決定した。

現在は詳細設計を進めているところで、施工に向けた詳細図面及び設計書の作成を行っている。詳細設計は今年度中に完了し、来年度から令和7年度まで斜面对策工事をを行う予定である。

また、今回の災害をきっかけに、史跡東側の土地所有者の方から合意を得た範囲について、馬場跡としての公有地化及び史跡の追加指定をする方針となった。

追加指定については、令和5年10月に文化庁の答申を受けており、追加指定した範囲については今後公有地化を進めていく。令和6～7年度は急傾斜地対策工事の工事ヤードとして使用するが、その後は誘導サインや解説版の設置等を予定している。具体的な整備の内容については、今後整備委員会の中で審議をお願いさせていただく。

もともとの整備内容として予定していた駐車場・トイレ工事は令和8年度に着手・完成、史跡整備工事は令和9年度から再開する。全体の整備事業が完了するのは令和11年度を予定している。

(委員長)

ただいまの報告について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。

(一同)

(なし)

#### 【資料3】史跡東側急傾斜地対策工事について

(事務局)

史跡急傾斜地の東側に居住されている方のうち、移転される方とそのまま住み続ける方がいらっしゃる。そのため、急傾斜地対策を行うにあたっては、まず人命を第一に考え、住民の安全確保を優先する方針として、可能な限り史跡保護との両立を図るという考えに立ち検討してきた。

「住民の方の安全確保」という点に関しては、住み続ける方の家に隣接する斜面に設定されている「土砂災害特別警戒区域」を解除することを安全確保の目安とした。（資料2に示した）②区については「土砂災害特別警戒区域」を解除するために、静岡県の指定する工法のひとつ「ロックボルト工法」と併せて連続繊維補強土工という斜面崩落防止工を採用する。この工法により「土砂災害特別警戒区域」の解除、つまり安全確保が可能になる。さらに表面は緑化するので史跡の景観を保護することもできる。②区は「土砂災害特別警戒区域」解除のために最下段の石垣にも対策が必要であり、文化庁との協議も重ねたうえで②区の一部の石垣に張りコンクリートを施工することとなった。この最下部の石垣は江戸時代の石垣である可能性が高いが、人命優先のため施工を実施する。石垣と張りコンクリートの間には、排水材などを設けて極力接地面を減らしていきたいと考えている。

①区の崩落した最上部の石垣について、崩落前は同じ段の他の石垣と比べて出っ張った状態だった。痕跡が現地に残っているが、石の間にコンクリートが詰められており、後世に作られた石垣と考えられる。この復旧方法について、中井先生と相談し、張りコンクリートの一種で、石垣のように見せていく石垣化粧型枠という方法を採用することになった。張りコンクリートの一種のため安全確保できる工法である。資料にある写真はあくまでイメージのため、より石垣に近いものを選択したいと考えている。①区の斜面については連続繊維補強土工のみの施工を行う。

また、今回の台風で斜面が崩れた原因として、斜面に降る雨と、陣屋跡に降る雨の両方の水量が原因と推定している。現時点では、応急対策として斜面に流れ込んでくる水を防ぐために土嚢を斜面手前に設置しているが、斜面に水が流れ込まないように排水溝を設けて、斜面手前で南側に水を流していきたいと考えている。

(委員長)

今の報告について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。

(委員長)

小島陣屋跡にはお城マニアの方も含め様々な方が訪れるが、急傾斜地については一般市民の方も関心度が高いと思う。そのため、この斜面を管理するという意味でしっかりと対策をする必要がある。

民家の裏に残る石垣の表面に張りコンクリートを施工することで、石垣の排水が悪くなることはないのか。

(事務局)

張りコンクリートの下には排水材を設置し、張りコンクリートにも排水口が入るため流れてきた水が地中で飽和し、石垣がはらむことはないと考えている。また、江戸時代のものと思われる石垣のうち、民家裏以外の石垣には施工は必要ないと整理できている。

- (坂野委員) 馬場跡を整備するとなると、引き続き居住する方のすぐそばに看板などができて、人が入ってくる可能性があるが問題ないのか。
- (事務局) そのあたりは住民の方も気にされている。特に民家が残るなかの一番南のお宅は不特定多数の人が来て視覚的に気になる部分もあると思う。そういった視覚的などところは今後ご意見を反映する必要があると考えている。
- (委員長) 馬場跡の発掘調査はどうするのか。
- (事務局) まだ未定だが、やる必要があると思う。
- (委員長) 江戸時代にも災害や地震があるので、小島陣屋の縄張りの変遷や自然災害との関いの歴史や、その都度何らかの手を加えてきたといったものが出てくるかもしれない。
- (事務局) 馬場跡を作るには直線上の平地が必要だが、元はあのふもとに侍屋敷があって不幸な歴史によって家は建てられなくなったかもしれない。
- (事務局) 今の道路と住宅地との境だが、住宅地(馬場跡)の方が道路より高い状態になっていって、高さの差を見ていくと、あるお宅はコンクリの塀があり、他のお宅には玉石を積んだような小段のうえに家を建てる等している。そのため幕末以前の石垣は一切残っていないという状況である。その高さの差というのは、馬場跡がどうあったかという部分ではないかと思う。
- もう一つ、これは伺った話で、その方の記憶があいまいな部分もあるとは思いますが、高低差があった境は今の道路の真ん中あたりだったと聞いたことがある。そこまでが馬場跡だったかもしれない。本当の馬場跡の境は調査しなければわからない部分ではあると思う。馬場跡を造成するときに、完全に石垣を取るには勿体ないということで、上にリードして、ここに道路を作ったのではないかという話も聞いた覚えがある。そのため調査を試みる価値はあるのかなと考えている。
- (渡辺委員) 私も確か小さいときに、馬場の上の縁を歩いたことがあって、段差があるような気がした。自分が幼かったのでその段差が大きく見えたのではないかと思うが、下のところに赤道は通っていなかった気がする。住宅の方(馬場跡)と道路の真ん中あたりが境だったのではないかと思っていた。過去にこの土地を持っていた方がいらっしやれば、その方に聞くのが一番簡単に調べられると思う。

#### 【資料4】令和6年度整備予定について

- (事務局) 来年度の事業は引き続き御殿書院移築復原工事を実施し、さらに急傾斜地対策工事も行なっていく。そのほかに急傾斜地石垣の発掘調査、書院に関連するイベント等も実施予定である。
- 書院に関しては、工事着手当初は令和5年度中に完成の予定であったが、補助金等との調整もあったため令和6年の11月末に完成する予定で進めている。
- 急傾斜地対策工事については、民家の残る北側を優先的に施工する。
- 発掘調査だが、急傾斜地対策工事の施工に合わせて、斜面の最上部および最下部にある石垣の築造時期や構造を確認するための調査を行い、写真および図面等の記録を残す。斜面の最上部の石垣は、石垣の下端にコンクリートの補強部があるため、その部分も含めた構造調査をしたいと思っている。調査のタイミングは斜面对策工事の直前、7月頃に実施をする予定で考えている。
- 最後に活用についてだが、整備事業が長期化することもあり、「整備事業の見える化」を引き続き行っていきたい。来年度に予定しているのは書院関連イベントで、2回の実施を予定しているが、そのうち1回は三浦先生に書院に関する講演をやっていただく予定でいる。同様のイベントは令和5年度にも実施した。資料には11月と記載しているが、7月に実施した。今年度は7月のイベントのほかにも5月に見学会を行った。イベントの実施にあたっては参加費や申込の有無を変えて、様々な形で実施し、データを取っている。令和6年度も三浦先生に来ていただくイベントの他に、現場見学会および左官体験ができるイベントを予定している。
- 今年度のイベントは基本的に市が企画して実施し、地域団体の小島町文化財を守る会の方々にご協力いただいた。小島町文化財を守る会の方々からも、自分たちが企画をした内容をイベントに盛り込みたいというお話もあったため、来年度は地域の方々も企画した内容を盛り込んで、少しずつ市主体から地域主体のイベント等を増やしていきたい。
- (坂野委員) 令和6年度に書院が完成するが、完成記念のオープニングイベントは令和6年度にはやらないのか。
- (事務局) 書院工事は11月末で完成の予定だが、その後の検査や管理の準備等ある。それらがおそらく3月ぐらいまでかかるのではないかと考えている。完全に供用開始できる状態まで持っていけるかどうかの見通しが難しかったため、令和7年度当初あたりに暫定オープンイベントができればと考えている。
- (坂野委員) 年度が変わってすぐに事業をやるといのはなかなか難しく、結局、イベント実施が秋くらいになるともったいない。完成後はあまり間を置かずしっかりと皆さんに周知していくことが必要だと思う。
- 色々試しながらイベントを実施するといった形で、一般の方が関わる場面を作っていってほしいということだが、終わった後に「こういうイベントがあった」というのを新聞で拝見したり、どなたかのSNSでみたりといったことがある。告知はどのようにしているのか。
- (事務局) 告知は広報紙やホームページ、登呂博物館やみほしるべのTwitterなどを活用している。
- (坂野委員) 告知の部分は少し課題ではないかという印象がある。
- (事務局) 今年度のイベントは年齢が比較的高い方に多く来ていただいたが、イベントでは大工体験コーナーなども設けているので、小・中学生含め若い世代にも来ていただきたいというところはあった。

- (坂野委員) イベントのターゲット層にどう伝えていくかというのも大切である。子供たちはこういう所に行きたいと思うことは少なく、親御さんがこれを学ばせたいと考え、親子で一緒に来てくださることも多いと思う。いろいろ持ち帰ったり、体験ができたりということなので、有料化するのはもちろん良いと思うが、そうであればなおさら大人の方に認知していただいて、来ていただくようにできるといい。例えば、小中学生がターゲットなら、学校さんをお願いする形で、事前の告知ができるといいのではないか。また、市内の小中学校の児童、生徒さんは小島陣屋までどうやってくるのかという課題もある。特に旧静岡市の方の人だと少し遠いというイメージもあるかもしれない。
- (委員長) Twitterなどを活用されているようであれば、定期的に「今こういう状態だよ」というような、工事の進む様子や周りのことなど、小島陣屋というのはどういうものかというところも発信できるといいと思う。定期的に発信をして、認知していただいて、イベントを実施するというようなことも大切である。
- (渡辺委員) イベントの際には、参加料がかかるにしても学生や何歳以下は無料という形もあっても良いのではないか。
- (委員長) 三浦先生はその文化財の歴史的価値や素晴らしさ、他にないその文化財特有の価値というのをものすごくわかりやすく強調して皆さんに説明して下さる。お話を聞いた地元の人たちは、お話を聞いて、小島陣屋跡を誇りにしていきたいと思ってくださると思う。そうすると、もう一度先生のお話を聞きたい、あるいは聞いたことを人に伝えたいという気持ちになるのではないか。
- (渡辺委員) 三浦先生や前田先生、中井先生が小島陣屋に来て指導をしていただいているというように、やはり伝えていくということが非常に大事だと思う。
- (坂野委員) 小島陣屋について皆さんに知っていただくには、2段階あると思う。まずは地元の方たちに知っていただくことを第一段階として、この計画にもあるように、将来的には地元の方たちは主催側に徐々に回っていただいて、迎える側になってもらいたいと思う。そして地域外の人にも多く来ていただきたいというのを共通認識でもっていただく。斜面对策工事のこともあり、全体の供用開始が遅れているので、地域の方の意識や期待というのも少し下がってくる可能性もあるが、イベントや活用等の計画立ても一緒に行い、市もいつまでに、どういうふうになっていくという活用計画的なものも持ちながらやっていく必要がある。

～終了～